

脳性麻痺の機能的アウトカムを改善するための介入 効果的な介入への重要な手順

CPの子どもや若者に関わる臨床家のためのガイドライン

脳性麻痺の子どもや若者が、機能的な目標を持つ場合、アウトカムを最大化するために、臨床家が実施すべきとされているいくつかの手順がある。

利用者中心の目標を設定する

ベストプラクティスとされている介入を行う第一歩は、子どもにとって意味のある目標を設定することである。目標は、実生活での活動に関連したものでなければならない。目標は現実的で、短期間で達成できるものでなければならない（長期的な目標に向かって取り組む場合もある）。そして、根底にある機能障害やスキルに対処しようとするのではなく、これらの目標に対する直接的な実施が、介入の焦点となるべきである。

子どもが目標とする行為を練習しているところを観察する

臨床家は、子どもが目標を達成することを制限している要因を特定するために、目標を達成しようとしているところを観察する必要がある。これには、子どもが、いつ、どこでその活動に参加する必要があるのか、または参加したいのかについて話し合うことも含まれる。子どもが課題を練習する方法や、課題や環境を構成する要素の中に、目標達成を促すために対応できることがあるかもしれない。

目標とする行為全体の練習をする

セラピーは、根底にある機能障害に対処することよりも、むしろ、介入の焦点が目標に対する直接的な練習であるときに、目標を達成する可能性が最も高くなる。目標とする行為全体の練習が不可能な場合は、目標とする行為全体の練習に向けて、部分的な課題練習を行うこともできる。

実際の生活場面で練習する

異なる状況の中では、課題を練習する能力に影響を与える重要な要因があるため、目標の実践は、子どもの家庭内やコミュニティで実施すべきである。そうすることで、子どもはより自信を持ち、臨床の場以外でもその目標を実施できるようになる。子どもの生活環境での練習が不可能な場合は、できるだけ子どもの実生活をシミュレートできるような環境で、様々な方策を使って練習を行うべきである。

十分な練習量を計画する

研究では、習熟し自信を持つためには、何度も課題を練習する必要があるとされている。子どもが目標を達成するための方針が決まったら、臨床家と家族は、子どもが目標を達成するために十分な練習ができるように、いつ、どこで練習ができるかの計画を立てるべきである。子どもの目標や同意された計画を反映したホームプログラムによって、この過程がサポートされる。